

産科の即戦力育成

岡山大が専門プログラム

岡山大は来年度から、助産師や看護師の技術を高めるとともに、子育てなどで離職した人の復職を支援して産科の人材不足を補う「即戦力育成プログラム」を始める。担当の中塚幹也教授は「産科医療や母子保健に、生涯にわたって総合的に携わりたいと考えている人に参加してほしい」と呼びかけている。

奈良県や東京都で妊婦が複数の病院に受け入れを断られて死亡するなど、周産期医療に携わるスタッフ不足が再認識されるなか、妊婦健診や分娩などで高い技術を身につけるのが狙い。また、不妊症や流産、虐待など、

子育て全般に関する講義をし、女性や子どもにかかわる問題を総合的にサポートできるようにする。

来々年4月から、半日(午後)の講義を15回行うほか、休日を利用して超音波検査や新生児蘇

助産師らの復職も支援

生など医療機器を使った実習をしたり、子育て支援をしているNPO法人の活動に参加。遠方の受講生のために、講義内容を録画して映像をインターネット上でも公開するほか、プログラム終了後、就職希望者には県内の病院への就職の仲介もする。

講義には就職前の学生も出席し、医療現場の経験者と交流すること、早期離職を食い止める効果も期待している。

15日〜来年1月16日に応募を受け付け、定員は約20人。無料。応募者多数の場合は選考する。問い合わせ、申し込みは同大学院保健学研究科教務第2係(086・223・7151)。